

# 県北 どらくろあ

第83号 2023年2月1日（毎月1日発行）



## 県北群星伝⑦ 博物の探究者 中村慎吾 85歳（庄原市西本町）

本誌で「虫と草木と人々」とを連載している中村慎吾さんが、一月三日に急逝された。本誌では以前に、「県北群星伝」という人物紹介を連載していた時期がある。中村さんには、その第七回、2017年の1月号に登場していただいた。感謝と哀悼の心を込めて、その記事を再掲載させていただきます。年齢や写真等は、当時の記事のままになっています。

カメムシという虫がいる。から、ヘクサムシやヘコキムシクサガメ（臭亀）に似ているからその名がついたといわれている。全国的に方言が多い虫で、その分泌物の異臭から、鳥取県と島根県に分布し

ている。これは、岡山県吉永町にある天台宗の古刹、照鏡山八塔寺に由来するという説や、特定の寺の名前ではなく法塔のある立派な寺の意でカメムシ類の害を封じることから生まれた等々、諸説が存在する。

中村慎吾著の「虫と草木と人びと」第2集に、「カメムシ方言考」が収載されている。カメムシの生態を知るためには、カメムシの観察はもちろん、生息地の植生や地理などの自然環境を把握する必要が

ある。そして、カメムシの多様な方言からわかるように、その生態には人間の生活が密接に関係している。自然科学だけではなく、郷土史や民俗学の豊富な知識が求められる。

これはもう、博物学の世界だ。「生きものたちの持つ限りない魅力に引かれ、その生きものを求め、その生きものの暮らしを求めて、倦むことを知らない知識欲、それが博物学の源泉なのである。」と、中村さんは自身の著作「虫と草木と人びと」で書いている。「日本産カミキリムシ食樹総目録」（小島圭三と共著）、「広島県昆虫誌Ⅰ、Ⅱ」、「広島県の蝶過去と現状」、「里山学入門」、「ひろしま海と山の博物誌」、「ひ

ろしま県北の草花（春）、（初夏）、（夏）、（秋）」（小川光昭と共著）等々、中村さんが出版した本は多岐にわたる。

中村さんは比婆郡比和町（現・庄原市比和町）の生まれだが、家庭の事情で翌年には韓国忠清南道に移住。中村さんが比和に戻って来たのは終戦後で、広島県立格致中学校（現・格致高校）三年に転入学、昭和二十三年に卒業している。

広島高等師範学校（現・広島大学）に進学する予定だったが、父親の胃癌が発覚、小学校の代用教員として家族の生活を支える道を選ぶ。十七歳だった。

そのとき「比和小学校助教諭」の辞令を渡したのが廣瀬繁登さんで、運命の出会いとなった。廣瀬さんは、比婆科学教育振興会の創立メンバーであり、後に庄原市社会教育委員、広島県自然環境保全審議会委員、広島県文化財保護指導員などの要職を歴任。知的好奇心にあふれ、その研究テーマは植物、古生物、民俗、郷土史と広大で、博覧強記の博物学者だった。後年、比婆科学教育振興会の会報「比婆科学」の編集をまかされるようになった中村さんは、身近で廣瀬さんの薫陶を受けるこ

とになる。

中村さんは代用教員として教鞭を取りながら、法政大学文学部史学科を通信教育で受講。昭和二十九年に卒業して、正式な教員資格を取得した。比婆郡内(当時)の小・中学校の教師を続けるが、文部省(現・文部科学省)の「在外教育施設への教員派遣制度」に応募して、昭和四十六年に台湾の台北日本人学校に赴任。在職期間は三年だった。

「外国の虫や植物を調べてみたいという思いがあったのは確かです」

九州よりも少し面積の小さい台湾に、日本全土にすむチョウの一・八倍近い約四百六十種が生息している。中村さんのライフワークの研究対象であるカミキリムシは六百五十種を超えて、日本全土に匹敵するだけの種類が生息している。

どうしてカミキリムシなんですか、という質問に「かっこいいじゃないですか」と少年のような笑顔で中村さん。カミキリムシの研究者は、チョウに次いで多いのだという。中村さんは、カミキリムシの研究論文が認められて、九州大学より農学博士の学位が授与されている。

「広島県の絶滅のおそれのある野生生物を調べていく中で、絶滅のおそれのあるチョウの大半が里山と結びついたチョウであることがわかり、それら絶滅のおそれのあるチョウを守るには里山を守る以外、方法がなく」と考えるようになり、柄にもなく

里山のことには手を染めることになったのです。」(「里山学入門」)

自宅にある膨大な書籍は、人間を含めた「生きもの」への愛情と好奇心の大きさの証だろう。その全貌を紹介するには、紙面もわたしの筆力も不足している。中村さんが名誉館長の比和自然科学博物館(20824・85・3005)を見学することを勧めたい。博物学の端緒を体感できるはずである。



## 中村慎吾さんの思い出

赤川仁洋

最初の出会いは、古本屋のお客さんとしてだった。自らを「書痴」と言い、膨大な読書量と蔵書を持つ中村さんの興味を引くような本が、素人が思い付きで開業した古本屋にあるはずもないが、どんな物好きが、こんな田舎に古本屋なんかを開いたのだろうか、様子を見に来られたのだと思う。

乏しい本棚に同情されたのか、無料で引き取ってほしい本があると言われて、自宅にうかがった。書庫にある本の量に圧倒された。自分の店にある本よりもはるかに数が多いし、いかにも高価そうな、分厚くて貫禄のある本が並んでいる。

中村さんは、蔵書の整理を始めら

れていたようで、その後も何度か、本を受け取りに自宅にうかがった。その中には、漫画本も含まれていた。現代漫画全集15冊、同第二期12冊。白土三平の「カムイ伝」15冊、第二期12冊、第三期11冊。これは「中村慎吾文庫」として、今でも店の漫画ルーム(読書専用)の棚に飾らせてもらっている。

動植物の専門書は、東京・神田保町の古本屋に声をかけると、すぐに駆けつけて来たという。「あの先生の蔵書ならば」と、信用は絶大である。わたしは今年の一月で65歳になった。相変わらずの古本屋のおやじだが、同年齢の友人たちは人生の転機を迎えている人もいる。年金を満額もらえる年齢になり、これからの生活をどうするか。

そうした友人とのメールのやりとりで、わたしは最後に「お互い、長生きしましょう。目標は百歳です」と書いた。店の常連客には、高齢になっても元気に活動されている方がたくさんいる。自分もそうでありたい。

中村慎吾さんもその一人だった。90歳を過ぎても山の現地調査に出向き、現役の研究者として活躍していた。頭脳明晰、博覧強記、質問したことには即座に的確な答えが返ってくる。手土産の古書持参で話してもらう昔話がまた楽しい。「老いることも財産」、そう言える人生をわたしも完走したいと願っている。

## 「旧暦カレンダー」(販売価格:1,650円)

- 日本の自然に根差した暦(こよみ)です。
- 太陽暦でも太陰暦でもない、「太陰太陽暦」です。
- 新暦(太陽暦)も併記しているので便利です。
- 季節の行事や呼び名の意味が、より深く理解できます。
- 自然災害の予測ができます。

どら書房にて令和5年度版 好評販売中!

※本誌特別連載の古川行洋氏推奨。





どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

### 「飢えなかった男」

小松左京 著 徳間文庫

日本 SF 小説の父、小松左京は、「日本沈没」や「復活の日」など大作が有名だが、短編の名手でもある。8作の短編が収録されている。表題作は、遭難した飛行機で唯一の生存者である日本人の物語。ニューギニアの高温多湿な過酷なジャングルを、岡田克彦はどうやって生き延びたのか。



遭難者の人肉食が噂される中、岡田の身体は徹底的に調べられる。不思議なことに岡田は衰弱することもなく、細菌や微生物に冒されながらも健康体だったのだ。その秘密が最後に明らかにされるのだが、「未知との遭遇」にも匹敵する壮大なスケールに圧倒された。

### 「白村江」

鈴木治 著 学生社

副題に「敗戦始末記と薬師寺の謎」。白村江は日本書紀では「ハクスキノエ」と読まれ、朝鮮半島の白江（現錦江）が黄海に流れ込む海辺。天智2年（663年）、かの地で日本の水軍が中国の唐軍と戦った。半島での百済と新羅の争いに、日本と唐が援軍を送る。その戦いで惨敗して百済は滅び、日本は長らく唐の影響を受けることになる。



その後の壬申の乱も、日本での急激な仏教の布教も、人民の困窮を無視した度重なる遷都も、女性天皇が増えたのも、日本の国力を削ぐための唐の謀略だった……。神国日本の幻想がふっとんだが、長年の疑問が氷解!?

### 「あひるの空」

日向武史 著 講談社

高身長が才能であるバスケットで、150センチ足らずの車谷空が、スリーポイントシュートを武器に、インターハイ出場を目指して奮闘する。クズ高と馬鹿にされる高校の弱小チームが、底辺からのし上がるための過酷な練習や葛藤はとてモリアルで迫力がある。

「スラムダンク」は、日常の家庭生活を描かないことで、最後まで全力疾走した。あひるの空



では、かつては名選手だった病身の母親の存在や、部活のコーチを引き受ける父親のことが丁寧に描かれている。大会の結果から入るという結末は斬新だが、全50巻、これで終了なのか休載なのか、作者にもわかっていない?

## どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

# 文学探訪

## 庄原と「百三の青春」②

### 魚が水を得た如く

音谷健郎

倉田百三が待望の旧制第一高等学校（東大の前身）に合格したのは、明治43年8月です。百三は大いに喜び、旧制三次中学同窓生たちが運営する「寮」に入って9月の入学式に臨み、一高の寮に移りました。

実はその年、試験を受けず入学した何人かの秀才がいました。後の東大総長矢内原忠雄、作家芥川龍之介、小説・劇作家の藤森成吉たちです。對抗意識を燃やした百三は、一高で

勉強に励み、後期には前期で果たせなかつた一番を獲得します。

さつそくに、旧制三次中学時代の5年間下宿した宗籐家の夫人で、叔母に当たる静子に送ったハガキはよく知られています。その感激ぶりを改めて紹介します。

「拝啓 本日成績発表あり、稀有の高点にて一番と相成り候間御安心被下度候、愚鈍の身も怠らず勉強せし甲斐ありて、幸に前学期の恥辱を雪

（すす）ぐ事を得、飛び立つ許りに嬉しく存じ候」と報告しています。明治44年5月15日の日付です。これに続けて、脚気の兆しもなく至って健康。1ヶ月後に迫った夏休みに帰郷するのが楽しみです。妹の「重子殿」には「婦人世界」を送る事などを書いていきます。

同年9月、2年次に上がる時、父吾作の勧めもあつて、文科から法科へ転学します。どうやら立身出世への憧れも持っていたようです。しかし、求道精神を秘めた百三は悩み始め、授業に出なくなるのです。

翌年の明治45年2月、岡山の香川（中村）三之助の下宿を訪ねて滞在します。三之助は、中村憲吉の弟で、三次中学時代に同級生となり、2人

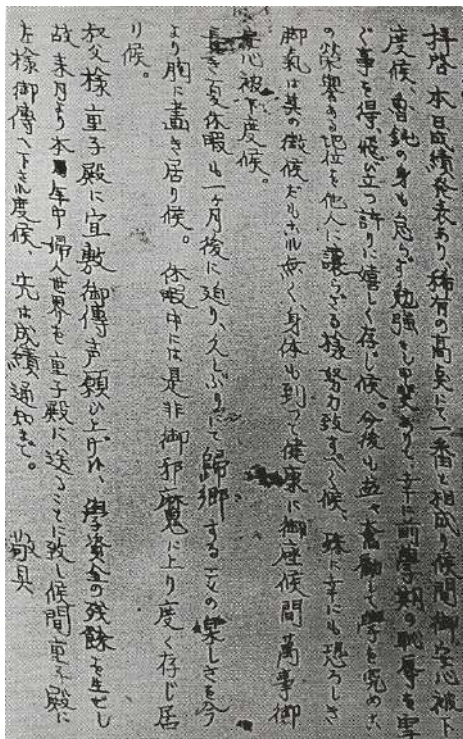
とも文芸部員として校友雑誌「巴峡」の編集に携わった親友です。岡山での再会では、持って行き場のない青春の懊悩をぶつけ合ったのではないかと想像します。三之助は、哲学への関心が高く、百三にも勧めたりしたようです。

こう書くとは誤解されそうですが、同中学では柔道部にも属して、「文武両道」を自負し、行動が勝る少年だったのです。

東京に戻った百三は、部員として編集に携わっていた一高の校友誌に始めて寄稿し、「憧憬——三之助への手紙」として夢と思想と生活感情をぶつけます。共感を呼びます。当時の“迷える仔羊”のような青年像を知るために、少し詳しく見ていきます。



百三を模したイラスト。  
倉田百三生誕100周年記念の  
岩崎健二作画のコミック『倉田百三』  
の表紙カバーから



宗籐静子宛ての喜びのハガキ  
（白鶴会『倉田百三の精神世界』  
の口絵写真より）

「哲学者は淋しい甲虫（かぶとむし）である」と始まります。そして「この一句を口ずさむとき、無量の哀調を聞くごとく涙ぐまら」と続けています。哲学者は、憧れの像です。そこに哀愁を見て取るのは、青春のなせる技ではないでしょうか。これに続けて三之助と手紙を交換する形式で展開



上野池・瓢山（ひさごやま）に建つ「森の沼」文学碑



上野池湖畔に6ヶ月、逗留した小屋のあった辺り。  
旧・百三をしのぶ茶寮（右の家屋）の先の崖のそば

しますが、あの時代にはやった文学形式です。全部を百三が独りで書いたものです。

まず、2人の関係を

「わが友よ、御身と逢う日は近く迫り来れり。わが心は常に哲学を思い、御身を慕えり。じつにわれらの間の友情はかの熱愛せる男女の恋にも勝りていかに纏綿（てんめん）として離れがたく、純乎として清きよ」としています。当時の男子学生たちにとっても憧れの形だったのでしよう。

「揃いも揃って美しい七人の姉妹の間に、父母の溺愛にちやほやされて、荒い風に揉まれず育った君は素直な、柔らかな若松であった」と三之助に云わせています。百三は、自分に溺れずに自己分析がしっかり出来ていることが分かります。意外な気がします。

「せめて今宵一夜は空虚の寂寞を脱し、酒の力を藉（か）りて能（あた）うだけ感傷的になって、蜜蜂が蜜を吸るほど微（かそ）かな悲哀の快感

が味わいたい」として「森の沼」の詩を披露しています。詩は、4連からなり、上野池にある「森の沼」文学碑は、その3連目を刻んでいます。詩は「上野池」を想定しているに違いない、百三にとって上野池は癒やしの源泉であることを思わせませう。

妹の倉田（小西）艶子が『兄百三』（1989年刊、小西弓次郎・出版）のなかで、「この清く沈潜した平和な山と湖が、故里の庄原にあったといふことは、百三にとって、まるで痛手の彼を待つてゐたやうな、もってこの場所であった」と、それを裏付けています。

最終的に「人性の燦（さん）ん」として輝くところ、そこに幸福があり、悦楽がある。人性の光輝を発揚せしめんとするところ、そこに努力があり。希望がある」としています。後年の百三の生き方の原理が現れているように思えます。

百三はこの後、熱烈な恋愛と失恋、脊椎カリエス、姉たちの結核死、家産の傾きと、暗い運命に見舞われます。一介の考えるだけの学生から、運命の重圧に耐えて生きる青年に変身します。本領を発揮するのです。

## 「ぐんぐん伸びよう会」

（教室：庄原市川西町 241 連絡先：080-3631-9125 やないたえこ）

当教室での教育の目的は、自分で学んでいける人間に！！

しっかりとした基礎力を身に付けたなら、自学自習力で学年を超えて学ぼう。



無料体験学習受付中！！ お気軽に問い合わせてくださいね。

対象者：0歳～小学6年生

「植物画とは何か  
—日本の植物図譜を中心に—」(14)

牧野が心血を注いで編纂した「大日本植物志」は残念ながら資金難などで第1巻第4集で中断し、その後、続刊されることはなかった。牧野富太郎はその後も研究を続け、数々の論文のほか、1901(明治34)年2月には「日本禾本莎草植物図譜」、続いて5月には「日本羊歯植物図譜」が敬業社から出版されている。

1916(大正5)年、「植物学雑誌」が学術色の濃いものになったので、より自由に植物の知識を普及する雑誌をつくろうと、「植物研究雑誌」を独力で創刊し、多くの人に植物を学ぶ楽しさを提供すると共に植物情報ネットワークの構築に貢献した。これ以前、1912(明治45)年1月、東京帝国大学理科大学講師となった。そのとき、牧野は50歳9ヶ月であった。

牧野富太郎が最初に広島を訪れたのは、1908(明治41)年で、この年、広島で植物採集をしている。次いで、1911(明治44)年に、広島市佐伯区河内峠・湯来町へ来ているなど、1937(昭和12)年まで、10回訪れている。それは広島文理科大学臨時講師として1週間内外の集中講義のためでもあったが、広島県在住の植物愛好家が招いたものがあつた。

そのひとつが、1932(昭和7)年8月2日～4日の「帝釈峽・美古登山地方植物採集会」である。この採集会は当時、広島文理科大学で助手を勤めていた高木哲雄(1905～1945)の呼びかけで開催されたもので、8月2日、広島駅へ参加者は集合し、芸備線で備後庄原駅に到着、車で帝釈峽へ向い、その日の午後、帝釈峽で植物を採集、東城へ出てから西城へ回り、その夜は西城で宿泊した。3日朝、西城を出発して熊野神社へ行き、そこから那智ノ滝～龍王山～立鳥帽子山～美古登山(現在は比婆山)～鳥帽子山と牧野の指導を受けながら参加者は植物を採集し、吾妻山泊と記録されている。しかし、当時、吾妻山には全く宿泊施設がなかったから麓の越原で民家に分散して宿泊したと考えられる。4日朝、越原から大膳原へ進んだ後、吾妻山へ登頂した後、吾妻山から井尻谷を下って石原へ出て森脇の道を歩き、山王で用意された車に乗り、庄原へ帰ったと考えられる。吾妻山で採集された植物のいくつかは、高木哲雄が中国新聞に書いているが、全容は不明である。この採集会を指導した牧野富太郎は70歳であった。牧野富太郎は神戸市の池長孟の義孝により、長年の経済的危機から脱し、家計に不安なく研究に没頭できるようになり、1927(昭和2)年4月16日、理学博士の学位を授けている。

1936(昭和11)年10月22日には、これまでの研究をまとめた「牧野植物学全集」全6巻付録1巻(図1)を完成させ、翌1937(昭和12)年1月25日、「牧野植物学全集」の出版に対し、朝日文化賞を受けている。

1939(昭和14)年5月25日、47年間、勤続した東京帝国大学理学部講師を辞任、翌1940(昭和15)年9月29日、1931(昭和6)年1月27日に稿を起した「牧野日本植物図鑑」が北隆館から発行された。「牧野日本植物図鑑」は1069ページの大冊、それに「植物學術語ト其小解」29ページと「INDEX」72ページ、「索引」21ページ、「漢名索引」11ページが加わる。巻末の菌類は川村清一、藻類は岡村周諦、地衣類は佐藤正己が分担し、多くの人びととの協力を得て完成させている。牧野の人柄と植物に対する無私の情熱が関係した人びとをして牧野を敬仰せしめた結果といえる。この「牧野日本植物図鑑」は不朽の名著で、今でも多くの人に親しまれている。

晩年は次々に一般向けの啓発書、「牧野植物随筆」(図2)や「趣味の植物誌」

著者紹介…一九三一年、比婆郡(現・庄原市)比和町に生まれる。農学博士(九州大学)。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びと」(シンセイアート出版)から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

を出版したり、「牧野植物混々録」を発行するなどして過し、1951(昭和26)年、文化功労者となり、1957(昭和32)年1月18日、満94歳でその生涯を閉じた。



図1 「牧野植物学全集」

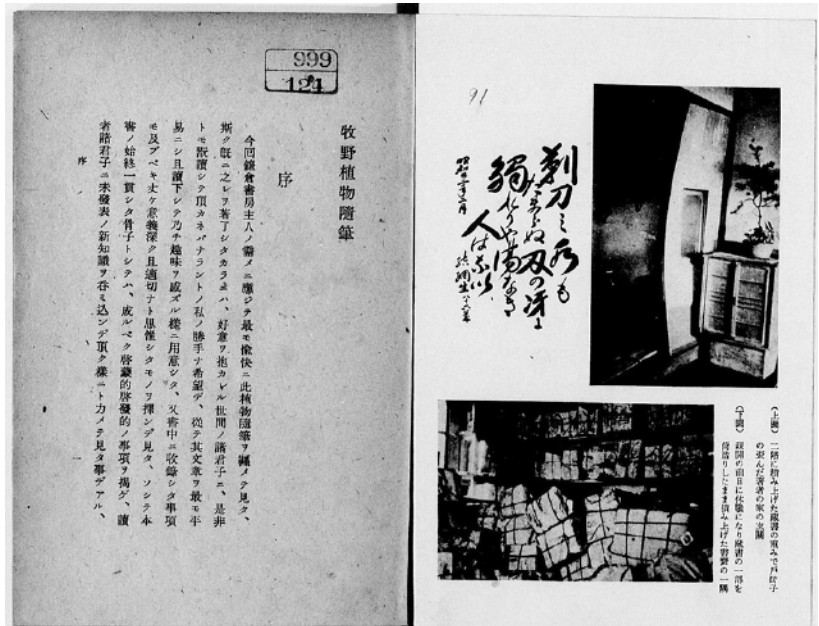


図2 「牧野植物隨筆」のグラビアと序(国会図書館より)

## 「つれづれ歌談」③②

松岡初枝

年も新たに成り、寒空の中でそろそろ花の便りが届く頃、花も見る人の立場によって楽しかったり悲しかったりするものです。

・妹として二人作りし我が山斎(しま)は木高く繁くなりけるかも

大伴旅人

妻が植えた梅の木を見るたびに、涙が流れてしまうのだよ…。

太宰府から佐保の自宅に戻った旅人。若妻だった彼女と植えた木だよ。あなたがいれば手入れをしたらどうなあ…。

・吾妹子(わぎもこ)が植えし梅の樹見るごとにこころ咽(む)せつつ涙し流る

大伴旅人

あなたが植えた梅の樹を見ると、留めどなくこみあげる涙。もつと優しくしてやればなあ。二首と



も妻に先立たれた男の悲しみ、言いやうのない独り身の寂しさが伝わります。花が咲けばなお更、実をつければ妻の分身に見えてしまう。酒好きで、酒を讃える歌を十首も詠んだ旅人にして、やはり古酒のような深みをもった古女房は、無二の存在でした。

・梅の花夢(いめ)に語らく風流(みやび)たる花と我思(われも)ふ酒に浮べこそ

作者不詳

梅の花が夢で私に言った「私は風流な花です。どうか杯に浮かべてね。私にぴったりでしょ」。なんとまあ風雅なこと。この歌を坂上郎女とする説もあります。甘やかな女の夢言葉です。

・巨勢(こせ)山のつらつら椿つらつらに見つつ思(しの)はな巨勢の春野を

坂門人足(さかとのひとたり)

都から紀伊国へゆく道にある巨勢山、そこに連なり咲く椿。花の時期ではない時に詠まれた歌ですが、椿の頃はさぞかし美しいだろうなあと想像した人足。旅の楽しみもまた花です。

花を見る時、その美しさだけではなく、背後にある人生を見ているのかもしれない。

初めてのお客さんだが、相当の古本好きであることは、すぐにわかった。立ちふるまいを見ていけばすぐわかる。かなりの高齢だが、洗い古染んだジーンズがよい感じに身体に馴染んでいる。小柄な背中に大きなリュックを背負っているので、旅行者だろうか。

昨日のお客さんには、困るというか、カチンときた。やはり初見の客なのだが、ほとんど本棚を見ないで、「何かおもしろい本はありますか?」といきなり訊いてくる。内心、「おもしろい本を自分で探すのがおもしろいですよ」と反駁しながら、仕方なく自分の好きな本をいくつか紹介したが、結局、買ったのは流行作家の映画化された本だった。たぶん、それで正解。自分の嗜好が変わっていて、一般的ではないという自覚はある。

「あの……、この本……」  
老人が差し出さした本をしばらく眺めていた。

(ああ、あのときの……)

記憶がよみがえった。郊外にあるスーパーの駐車場に、古紙回収のコンテナがある。段ボールの処分を立ち寄ったのだが、その本を見つけた。助けてくださいと懇願されているよ

うな気がして、そつと持ち帰った。カバーも無く、本が中割れして傷みや変色がひどい。中のページには、意味不明の文字が並んでいる。仏教の経典などで使われているサンスクリット語? 状態も悪く、価値もわからないので、百円均一の棚に突っ込んでいた。もう五年以上も前のことである。

「そうですか……、斎藤君が買って

# 旅人

あきふゆひこ  
亜木冬彦

現代御伽草子 ⑦⑦

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

たのか……」

事情を説明すると、老人は愛おしそうに本の表紙を撫でた。裏表紙の見返しに、購入日と名前が万年筆で書かれていた。

「これは、エジプトの作家の原書なんです。ナギーブ・マフフーズ・アブデルアジズ・イブラヒム・アフメド・アル・バシヤ」

フルネームを言われて面食らった

が、ナギーブ・マフフーズならわたしも知っている。

「この本はアラビア語だったんですね」

老人が頷いた。アラビア語文学作家では唯一、一九八八年にノーベル賞を受賞した。アラビア語圏ではその後、ノーベル文学賞作家は出ていない。

「カイロ三部作の一作目で『パレス・

無事、卒論が完成して大学を卒業したあとで、その本に再会するために古本屋を訪れたときに、店主に声をかけられたという。

「見られないようにこっそり暗記していたつもりが、バレていたんです。叱られるのを覚悟で正直に事情を話したのですが、店主はこの本をわたしに手渡しして、『卒業おめでとう。よくがんばったね』と言ってくれたんです」

しかし、気真面目な老人は、その申し出を断ってしまった。働いて自分のお金で買うから、本を取っておいってくださいとお願いしたのだという。一年後にその古本屋を再訪したときには、店主が息子の代になっていた。前店主は心臓に持病を持っていた。急死、ナギーブ・マフフーズの原書も行方がわからなくなっていた。

「斎藤君のおかげですね。彼の墓参りに立ち寄って、この店を見つけた」  
斎藤孝太郎氏はアラビア文学の研究仲間、翻訳者としても活躍した人物だという。六年前に亡くなっている。そのときに、本の価値がわからない遺族が、蔵書の一部を処分したのだろう。それを百円均一の棚に放置したわたしも、古書店主失格で



ある。  
 「しかし、困りました……」  
 老人が呟いた。そして、「失礼」と一声かけて、唐突に唄い始めた。  
 「赤い雲ゆく夕陽の草原  
 たどる心やさしい若き旅人よ  
 ごらんはるかな空を鳥がゆく  
 遠いふるさとにきく雲の歌に似て  
 やがて深いしじまが星を飾るだろ  
 う  
 君のあつい想い出  
 胸にうるむ夢を埋めて  
 時はゆくともいのち果てるまで  
 君よ夢をここに若き旅人よ」

少し音程が外れているが、朗々とした唄声だった。

「わたしが唯一、唄える歌でしてね。とくに二番の歌詞が好きなんです。子供の頃から、旅人になるのが夢でした。何ものにも束縛されることなく、着の身着のまま、風に吹かれて流されてゆく……」

老人が、少年のような無邪気な笑みを浮かべた。

「わたしは去年、卒寿を迎えましてね」

驚いて老人の顔を見た。高齢だとは思っていたが、とても九十歳を超えているとは思えない。

「すべての役職を引退させてもらって、わたしは旅人になったんです。本当は、ラクダでサハラ砂漠を横断してみたかった。アラビアンナイトの世界に憧れて、わたしはアラビア語学者になったんです」

無謀だというわたしの内心を察したのか、「女房にも大反対されましてね」と言って自嘲した。

「アルワアドウ・サハーブン・ワ・アルフィアル・マタル」

流暢な発音だった。

「直訳すると、約束は雲、実行は雨、という意味です。言葉で約束するのは簡単で、実行することが大事だと

いうアラビアの格言です。砂漠では、水は命の次に大切ですからね。わたしの人生訓でもあります。女房殿をどうにか説得して、日本国内ならばということ、旅に出たんです」

この老人にはまだ若者の心、いや、少年の心が残っているのだろう。

「わたしは旅に出る前に、ある目標を立てました。その方が旅の日々に張りが出ると思ったのです。それがこのマフフーズの原書です。古本屋を訪れる理由にもなりますからね。その目標は達成できないだろうと思っていました。この本に二度と巡り合うことはない諦めていました……」

小さくかぶりを振った。

「イエド・ワーフダ・ラ・テュサファク、片手で拍手はできない……」

呟きが聞こえた。

「家に帰ります。わたしのわがまま、あいつには今までさんざん苦勞をかけた。今度はふたりに旅に出ます」

老人は、強引にわたしに一万円札を押し付けると、大切そうに本をリュックの中にしまって、店の外に出て行った。いつの間にか、粉雪が舞っている。

## まちの古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
- ・地元の絵葉書、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。

※九日市の開催日は2月でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日（2月は店内整理で全休）
- TEL: 090(9913)3052
- 営業時間 9:30～18:30

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

# 「旧暦」のカレンダーを見る

古川行洋

## 七月名(和風月名)(1)

日本独特の豊かな季節感から生じたものであるように思える。その語源についてはよくわかっていないし、明らかにすることは難しい。古来からの有力な説を紹介しよう。

睦月(むつき) 旧暦一月の異称。鎌倉末期、室町時代には、正月は身



分の上下なく、また老いも若きもお互いに往来して拝賀し、親族一同集まって娯楽遊宴するという睦(むつ)

び月の意であるとし、このムツビツ

キという言葉が訛(なま)ってムツ

キになったという。ちなみに、『大言

海』では、「寒月の義。稲の実を初めて水に浸す月なりという。一説に相

睦び月の意というはいかが」という態度をとっている。

如月(きさらぎ) 旧暦二月の異称。如月の字をあてたのは、

如は『爾雅(じが)』(中国最古の字書。紀元前二世紀頃成立)「釈

天(しゃくてん)」編に「二月を如となす」とあり、中国の二月の異称であることに由来しているという。

二月はまだ寒さが残っている

ので、衣を更に重ね着するから

「きぬさらにき月」といったのが短くなり「衣更着(きさらぎ)」となったという。『大言海』では、「萌揺月(きさきゆらぎつき)の略

という。

弥生(やよい) 旧暦三月の異称。ヤ

ヨイについて、古来から、木草(き

くさ)弥(いや)生い茂る月、つま

り草木のいよいよ生い茂る月の意で、

「きくさいやおいづき」が詰まってヤ

ヨイとなったという。『大言海』では、

「いやおいの約転。水に浸したる稲の

実のいよいよ生ひ延ぶる意」とする。

卯月(うづき) 旧暦四月の異称。『奥

義抄』という書に、「うの花さかりに

ひらくゆゑに、うの花づきといふを

あやまれり」と見え、以来「卯の花月」

の略という。

卯の花とは、空木(うづき、ユキノシタ科の落葉低木)の花のことで、

五、六月頃、白色の小さな花を咲かせる。『大言海』は、稲種を植える月、

月の意になったともいわれる。本居宣長は、田を植えることをすべて「サ」というので、サツキは「田植えの月」の意味と解している。

ちなみに、接頭語の「サ」には次のような意味がある。

①語調を整えるために付けて、時期的に早い、若々しいの意を表す。小

枝(さえた)、小牡鹿(さおしか)、小百合(さゆり)、小霧(さぎり)、

早蕨(さわらび)等々。

②田植え(の時期、すなわち旧暦五月)に関連があることを表す。早乙女(さ

おとめ、早少女、五月少女とも。田植えをする女の意)、早苗(さなえ)、

五月雨(さみだれ)、五月蠅(さばえ、初夏に群がる蠅)等々。

水無月(みなづき) 旧暦六月の異称。三つの説がある。一つは、梅雨も終

わって水も涸れ尽きる、という説。二つ目は、逆に田植えもすみ、田ご

とに水を張る「水張り月」、「水月」であるという説。三つめは、田植え

も終わり、大きな農作業をすべてしつくしたという意味から「皆仕尽(みなしつき)」または「皆尽(みなつき)

月」の略であるという。『大言海』では、「田水之月」の略転だとしている。

シニア海外ボランティア・エピソード②

## 「ザンビア共和国へ赴任 待つ忍耐力が必要」

山崎 允<sup>まこと</sup>

JICA(日本国際協力機構)から日本を出発する前に「公用旅券」が手渡された。その際、説明されたことを今でも覚えている。

「この旅券は国会議員や公務員等が公務で渡航する場合に発給されるもので緑色(ダークグリーン)の表紙です、国を代表しているということ念頭に持って活動して下さい」

それまでは、5年間で有効な青い表紙、10年間で有効な赤い表紙で「一般旅券」であつて表紙には「void」が穴あけパンチで押されており「無効」となっていた。余談になるが、日本国のパスポートの信頼度は世界一ではないかと思う。ニッサン、トヨタ、ホンダ、ソニー等の日本製品が培った「優れた商品」という実績と評判の上に、先日のサッカーのワールドカップの応援に行った日本人観客が、試合終了後に座席と周辺に散らばったごみを拾って帰っていった光景は、過去から現在まで「世界の見本」として賞賛されている。



さて、ザンビア到着後、一か月は生活基盤を整えることに大きなストレスを持ちながら格闘した。特に固定電話の引き込みは、インターネットの接続に電話回線を使う

ので急を要する課題であつたが、設置までに一月を要したことには閉口した。その間は、携帯電話のお陰でかろうじて日本の家族と連絡が取れていたが。

ザンビア政府が大株主の会社の職員と、我々日本人との間には大きな意識のずれがあつた。早く業務を開始したいという私の切望と、電話局の職員のお役所仕事ののんびりとした対応は、まるで反比例するようでありと葛藤の日々であつた。時には厳しいことも言つてしまい、相手の心証を害したのではないかと反省もした。

しかし、「待てば海路の日和あり」、待ちに待った電話が開通した。ここで、ザンビアでは「待つ」ということに慣れる必要があることを知らされた。

パソコンを使うと電話局につながる呼び出し音、相手につながった時の「ジー」という接続音が、そして、回線が混んでいると「ツ、ツ」という話し中の音、そして、もう一度最初からのやり直しを何度くりかえした。こんな前近代的なパソコンや電話の回線状態も「待って、待って、待った」時のストレスを思い起こすと「まーいいや、そのうち接続

できるんだから……」と、悟りの境地に引き込まれたものであつた。

次に、運転手とお手伝いさん(ハウスキーパー)との契約、宗主国であった英国の交通システムのため、「車は左、人は右」の日本と全く一緒の規則であつたので助かつた。そのせいか、町の中には日本で廃車になつたはずの車が元氣よく走り回つていて、私に話しかけてくれるような気がした。「あんたも日本で廃車(定年退職)になつたのか、お互いに頑張ろうな」と勇気づけてくれるのだ。

JICAからの忠告で、白い色のトヨタカローラはガンポイント(銃を突きつけられ強奪される)なので、別の車種を買うようにと言われ、ワゴンタイプの「カリブ」を買入れた。宿泊を伴う視察が多くなるので、旅先での交渉ごとに役立つ運転手との契約。そして、身の回りの世話、主に洗濯、アイロンがけ、食器洗い、家の周りの草刈りをしてくれるハウスキーパー(男のお手伝いさん)との契約を済ませた。

生活の基盤ができると、JICAの職員が観光省に案内してくれた。そして、私にとって非常に残念な知らせを突きつけられた。

## どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

多喜二の忌口が裂けても言へぬこと

近藤 昌平

大寒や今朝の命のありがたく

富久光

故郷の味懐かしむ雑煮かな

片岡 正人

入信を勧める女と炬燵ひとかな

隆愚

庭にスロープ初めてのソリ遊び

大槇 三代子

餅焼くや妻と二人の日曜日

寺内 龍二

薄氷うすらいのしよぼくれた顔たたき割る

赤川 冬人

我が好きな武将のひとり信長も

松岡 初枝

見しか月食の赤き月夜を

## 投稿&寄稿

候のことば

隆愚

「土詠潤起」

日本には七十二候と言って七十二の季節があると言われています。およそ二月十九日から二十三日頃を雨水の初候といい「土詠潤起」と書い

て「どみやくうるおいおこる」とか「つちのしやううるおいおこる」と読みます。早春の暖かな雨が降り注ぎ土地がうるおいめぎめる頃。「詠」は「脈」の俗字で「土脈」と書いて土地とか地脈の事になります。この時期は気温が低い為、雨が降つた後も乾きにくく、さらに雪解けや霜解けも加わって、土地がぬかる

みます。これを「春泥」といいます。いまでは、殆んどが舗装された道になつて、なかなか実感が湧かなくなつてしまいました。かつては身近な春の風物詩でした。

古くは「獺（かわうそ）魚（うお）を祭る」という不思議な季節とされてきました。中国古代の天文学による七十二候では、雨水の初候は「獺祭魚」でした。獺は魚をよく捕えるものの、魚を岸に並べた後なかなか食べようとしませんでした。それが祭の供え物の様に見えた事から、獺が先祖の祭をしていると、この季節の名が生まれたそうです。

「恐竜の腸内？」 赤川仁洋

前回の芸備線ストロールで、面白い場所、というかモノに遭遇した。市岡駅から国道182号線を矢神駅方面に歩いていて。左側に神代（こうじろ）川が流れている。

支流の三光川が流入している交差点を右折して線路を渡り、三光川沿いに進むと高速道路の大きな高架がある。その下を通り抜けた先は山麓の田園地帯で、中国縦貫道の高い壁で仕切られているので、別の集落に入り込んだような感覚だ。

問題の物体は、高速道路の高い壁の中に存在した。壁の沿道を歩いていると、奇妙な「穴」をみつけたのだ。なんだろうと近寄ると、壁の下が割り抜かれていて、向こう側の景色が見える。機械類は何もないので、施行時に近隣住人の要望で造った通路なのだろうが、高さがわたしの胸ぐらいままでしかない。

頭をかがめて中に入る。床はコンクリートなのだが、側面や天井は鉄製の大きなパイプを、下三分の一のところを切断した形。強度を増すためか、表面が波状に加工されている。なんだか、巨大生物の腸管を連想させる不思議な空間だった。



# どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など  
情報掲示板です。

## どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して  
いるので、ダウンロードして  
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

## 「庄原を想う会」主催の交流会

「気軽に庄原について話し、仲間の輪を広げよう」

日時：2月26日(日) 13:30～15:30

テーマ：「自然の中の玉手箱

～先人の知恵に魅せられて

定住対策プロジェクト～

講師：寺西玉実氏

(地域マネージャー・

自然体験活動施設 絵本牧場ごんぼ代表)

会場：交通交流館(備後庄原駅隣接)

参加費：500円(学生200円、お茶菓子込み)

申込み&問合せ：080-3631-9125(柳井妙子)

## 東日本大震災復興祈願法要 佐々木リョウ feat. LiLi ライブ

日時：3月4日(土)

場所：萬福寺(庄原市是松町227)

TEL：0824-72-0292

※入場無料(会場に募金箱を設置しています)

### - スケジュール -

13:00 チーズ「ふくふく牧場」

革職人「tears of clown」

アクセサリー「ハンドメイド☆Kei」

ガマ口「Sora 豆」

額縁「工房アム」

喫茶「萬福寺」(カフェ・マウンテン)

14:00 坐禅と法要

15:00 佐々木リョウ feat. LiLi ライブ



佐々木リョウ  
(三次市在住のシンガーソングライター)



LiLi  
(広島を拠点に活動する  
キーボード&パーカッションユニット)

## 編集後記

◇中村慎吾先生の突然の訃報には驚きましたし残念です。追悼号というところで、「県北群星伝」の記事を再掲載、「芸備線ストロール」はお休みです。本音を書けば、取材に出かける元気がありませんでした。

◇中村先生についての追悼文、あるいは思い出を書いてくださる方があれば、歓迎します。順次、掲載させていただきます。

◇雪の日が多いですね。昔は除雪作業が当たり前だったのに、温暖化に慣れてしまったのか、あるいは歳のせい(苦笑)、辛く感じます。

◇どら書房は店内整理で2月は休業(九日市の日だけ開店)、よろしく願います。

発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052(赤川)

e-mail:touzin@nifty.com

誌面デザイン：ROUTE183

協賛：九日市愛好会

第257回

くunchiichi

# しょうばら九日市

## 〈出店一覧〉

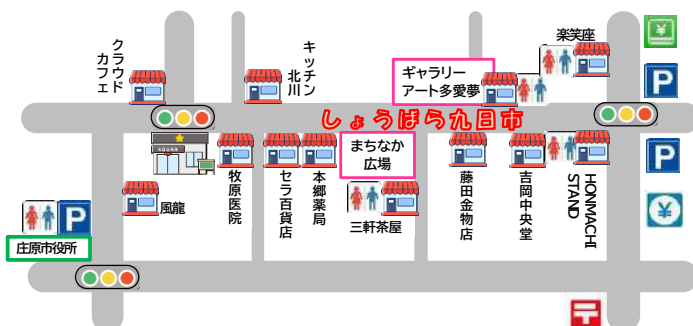
- |             |            |                    |
|-------------|------------|--------------------|
| *文屋         | *農楽会       | *克國水産              |
| *お福         | *二八そば加工所   | *久代水産              |
| *郷屋         | *さだっさ      | *くんえん工房 香豚         |
| *工房アム       | *17KITCHEN | *どんぐりーず            |
| *めくもり       | *アーミッシュ    | *佐藤園芸              |
| *ちくちくはうす玉手箱 | *満じいの手打ち蕎麦 | *田崎屋               |
| *和み屋        | *とらぢ       | *宮川屋               |
| *クラフトショップ   | *あたりや      | *庄原特別支援学校<br>(高等部) |



2023年  
2月9日(木)  
9:00~13:00

## TOPICS

- ★市民ギャラリー「アート多愛夢」  
2月8日(水)~2月10日(金)10時~15時  
世界児童画作品展
- ★楽笑座「うた声喫茶」開催 13:30~15:00
- ★どら書房→休憩所あります!!
- ★風龍→九日市スペシャルで餃子200円!
- ★HONMACHI STAND→コーヒー100円引き
- ★カフェクラウド→タピオカドリンク100円引き  
九日市特製ピタサンド600円



\*出店申込みは、【毎月20日締切】 コンパネ1枚スペース1,000円~  
九日市愛好会事務局 TEL/FAX(0824)72-8285  
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 (楽笑座内)

【ホームページ】  
<http://www.kunchi-ichi.jp>

